

日本人戦没者慰霊祭
石破内閣総理大臣 追悼のことば
(令和7年8月15日)

日本国政府及び日本国民を代表し、フィリピンのカリラヤにおける日本人戦没者慰霊祭の挙行にあたり、この地で命を落とされた方々の御霊に対し、衷心より哀悼の誠を捧げます。

80年前、先の大戦において、ここフィリピンも苛烈を極めた戦いの地となり、あまりにも多くの尊い命が犠牲となりました。51万8千人の日本人が命を落としました。

祖国を思い、御家族を案じながら亡くなられた方々を思うと、今もなおその尊い犠牲への深い悲しみが込み上げてまいります。

フィリピンの方々にも多大なる犠牲を強いました。日本人を大きく上回る100万人以上の方々の命が失われました。

今日、我々が享受している平和や繁栄は、戦没者の方々の尊い犠牲、そして、戦後80年間にわたる人々のたゆみない努力の上に築かれたものであることを、我々は、決して忘れてはなりません。

東京の日比谷公園には、エルピディオ・キリノ元

大統領の顕彰碑が置かれています。同大統領は、戦後、フィリピン国民の間に日本に対する厳しい感情が未だ強く残っている中であって、105名の日本人BC級戦犯に恩赦を与えられました。自らも戦争で奥様及びお子様3名を失っておられたにもかかわらずです。では、なぜこのような決断を行うことができたのか。キリノ大統領は「日本人に対する憎悪の念を残さないために、これを行うのである」とのお言葉を残されています。

毎年、慰霊祭を行うこのカリラヤ。この地に戦没者慰霊碑を設けることができたのも、1973年当時、フィリピン政府から、この土地の無償使用を許可するとのことと厚意があつてのことと承知しています。

来年、日本とフィリピンは、国交正常化70周年の節目を迎えます。改めて、こうした先人たちの努力、フィリピンの方々の寛容な精神、そして、両国国民の友情と信頼があつて、現在の日フィリピン関係があることを思い知らされます。

私も、今年4月にこのカリラヤの地を訪れ、献花を行いました。また、マルコス大統領との間で日本とフィリピンの関係を地域の平和と安定に向けて更に強化することで一致しました。

先人たちの歩みの上に、今後、幅広い分野でのフ

フィリピンとの連携を更なる高みに引き上げるべく取り組んでいく所存です。

フィリピン残留日系人の方々の一日も早い国籍取得が実現するよう、訪日事業なども通じて、引き続き政府として取り組んでまいります。

また、未だに帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも、決して忘れません。一日も早くふるさとお迎えできるよう、国の責務として全力を尽くしてまいります。

終わりに、いま一度、日比両国の戦没者の皆様の御霊の安らかならんことを、御遺族の皆様の御多幸を心よりお祈り申し上げ、私の追悼の辞とさせていただきます。

令和7年8月15日 内閣総理大臣 石破茂

(了)